

# すげ笠と子どもを中心に据えた公民館活動

～伝統を守り、子どもの成長を願う～

清水東公民館

## 1 清水東地区の概要

清水東地区は、福井市西部を流れる志津川と日野川の合流地点から南の丹生山地への入り口に位置している。地区内に点在する低い丘陵には、弥生時代後期に造られた墳丘墓の小羽山（おばやま）30号墓、古墳時代に造られた前方後円墳の御城山（おしろやま）古墳など、数多くの遺跡が確認されており、古来、人々が定住していたことがうかがえる。

当地区の産業は稲作が中心であったが、冬季の仕事として、ほとんどの集落ですげ笠作りを行ってきた。すげ笠の生産数は、最盛期には15万個にも達し、国内だけではなく東南アジアにも輸出されていたが、近年需要がなくなりすげ笠作りは衰退してしまった。そのため、失われつつあるすげ笠の伝統を守り引き継いでいくため、当地区を「すげ笠の郷」とし、様々な取組みを行っている。

平成18年2月1日、旧清水町は福井市と合併し、上天下町、下天下町、小羽町、三留町、清水杉谷町、田尻栃谷町、竹生町、清水町、和田町、及びホープタウン田尻の10町内が清水東地区として新たなスタートを切った。

清水東地区の公民館活動は、平成22年に完成した公民館を拠点に、伝統を大切にしつつ子どもに焦点を当てた事業を中心に行っており、これらの事業を通じて町内間の連携や住民間の交流が積極的に進んでいくことを目指している。

## 2 すげ笠を中心に据えたまちづくり

### (1) すげ笠作りの伝統を守る

旧清水町では、町をPRする目的で町内3カ所に大きなすげ笠のモニュメントを設置するなど、すげ笠を町の象徴としてきた。一方、長年にわたりすげ笠の生産地であった清水東地区の各町内においても、すげ笠は地元の伝統文化のシンボルとしてとらえており、現在も清水東地区のまちづくりに生かされている。

すげ笠作りは、江戸時代から農家の冬の副業として

盛んに行われており、大きな収入源になっていた。そのため、昭和初期のすげ笠作り職人は約400人位に達したが近年、笠の需要が減少、職人は約10人位になってしまった。平成元年、すげ笠作りの継承に危機感を募らせた清水杉谷町は「越前菅笠を守る会」を立ち上げ、会の活動を通してすげ笠の伝統を守り続けている。

一方、公民館では、すげ笠作りの後継者を育成するため、後継者育成講座を年10回開催し、竹を使った骨組作りやすげを縫い込んでいく作業に取り組んでいる。なお、すげは折れやすく編み込み作業には湿気が必要なことから、講座は冬期に開催されている。令和5年度の講座では、笠骨作りで5名、笠縫いで約15名位受講しているが、すげ笠作りにはかなりの技術を要するため、後継者となるにはもうしばらくの研鑽が必要となっている。

子ども達の取り組みとしては、毎年、清水東小学校が5年生を対象にすげ笠作りの体験教室を開催している。開催にあたり、公民館は講師の選定や日程調整などを行い講師を小学校に派遣している。講師は、児童に対し竹を使用した骨組作りやすげを丁寧に縫い込んでいく昔ながらの作り方を指導している。また、5年生は、地区の方々と一緒にすげ田でのすげの刈り取りやすげの日干し作業なども行い、すげ笠を守る活動に努めている。

このような取組みを行い、地区をあげてすげ笠の伝統を守り未来に継承する意識の醸成を図っている。



[ すげ刈り体験 ]

### (2) すげの郷オータムフェスタ

毎年10月、すげの郷オータムフェスタを開催している。オータムフェスタとは、7月開催のサマーフェスタを令和4年より10月開催に改め、名称もオータムフェスタに変更したフェスタである。フェスタは、清水東地区まちづくり協議会が主催となって取り組んでおり、スタッフ

は、まちづくり協議会・自治会連合会・各種団体・自主グループなど約200名で構成されている。

令和5年に清水東小学校グラウンドで開催されたオータムフェスタ2023を簡単に紹介すると、午後2時から7時の間、清水中学校吹奏楽部演奏会、交通安全ビンゴ、清水東のギネスに挑戦などの催しのほか、体験・参加ブース、飲食ブースの出店など、盛りだくさんの内容であった。さらに、午後5時20分から始まった「みんなみんなですげ笠音頭」では、幼児から年配まで大勢の幅広い年齢層の方が踊りに参加し、フェスタを大いに盛り上げた。

このフェスタは、参加者が約500人以上にもなる一大イベントであり、人口約1,700人の清水東地区では住民の参加率が非常に高い人気のある行事である。

### 3 子どもを中心に据えた活動

公民館内には子ども未来部という部会があり、各町内の子ども会育成会やその他の育成団体などと協力して子どもを対象とした活動を行っている。また、有志児童とその保護者などが自ら活動を企画・運営する「東っ子わくわく隊」も組織されている。このように当公民館は子ども対象の活動組織が充実している。

子ども会育成会が主催の春のイベントとしては、例年5月に開催される「古墳ウォーク」がある。これは親子が公民館から小羽山自然公園までの間を、途中コハクチョウが越冬する冬水田んぼのお話を聞きつつ田園風景を楽しみながらウォーキングを行うもので、目的地の公園では古墳に関する〇×クイズが行われた。

また、体育振興会と子ども会育成会の共催で行われる夏のイベントとしては、例年7月に開催される「スプラッシュオリンピック」がある。これは、子ども達が思いっきり水遊びを楽しむ場を提供したいという思いから行われており、子ども達ははしゃぎで水遊び競技を楽しんだ。



〔スプラッシュオリンピック〕

未就学児対象の活動として、毎月1回、清水東地区子育て支援委員会がその親子を対象に公民館で行っている「ちびっこ広場」がある。令和5年6月には「歌

あそび」「七夕飾りづくり」を行った。ティータイムではママさん達の交流などが行われ、また、スタッフによる赤ちゃんの発達状況のアドバイスも受けた。

なお、毎週水曜日の午後、公民館では「清水東放課後子ども教室」が開催しており、東小学校児童の約8割約60人位が参加している。教室では、宿題などのほかドッジボール遊びやビオトープの観察、おやつ作りなど楽しい行事が行われ毎回歓声が上がっている。



〔ちびっこ広場〕

### 4 生涯学習の環境づくり

公民館は、社会教育の推進と生涯学習の取り組みをその目的としている。

教育基本法第3条に謳われた生涯学習の理念を地域に活かすべく、その環境づくりに努めている。

### 5 終わりに

清水東地区は10町内で構成されているが、これまで何度か小学校区の変更があったことにより町内間の交流が希薄であった。平成22年4月に清水東公民館が現在の地に新築移転したのを契機に、町内間の連携や住民同士の交流を図るべく公民館を拠点として全町内参加を原則とした様々な活動に取り組んできた。具体的には、スポーツを楽しむための「清水東地区・清水東小学校合同体育大会」や「自治会対抗ソフトボール大会」、地区内を美しくするための「花壇コンクール」などである。

このような活動を始めてから13年が経過し、様々な行事や講座などの住民参加数は徐々に増加しているのを実感している。今後も、地区の美しい自然環境、史跡及び伝統を大切にしつつ積極的に住民同士の交流を進めていく活動に取り組んでいきたい。

初期に放課後子ども教室に通った児童も成人を迎え、近年公民館事業やまちづくり事業に企画・運営するといったうれしい現象が生まれている。成人した子ども達にとって公民館が心のふるさととなる日を願っている。